

【団研ニュース 2025年冬号】

2025.12.1

編集発行 地学団体研究会 団研係 〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-16-6 古峯ビル402
TEL:03-3983-3378 FAX:03-3983-7525 Email:chidanken@tokyo.email.ne.jp

＜島弧深部構造研究グループ＞

島弧深部構造研究グループの合同研究集会報告

ネオテクトニクス研究グループとの合同研究集会（第 17 回島弧ネオテク合同研究集会）を 8 月 3 日（日）13:00～17:30 に開きました。

・富山県、白亜紀前期、手取層群庵谷峠層の変形礫岩（二村）、・埼玉県春日部市の古隅田川の堰止—古隅田川が利根川本流でなくなったわけ（佐藤）、・トカラ地震の特徴（報道中心に）（方違）、・島弧変動期における“3 要素ユニット（three-factor unit）”にみる地殻の鉛直隆起運動（足立・小林）、・新潟砂丘の後世変形による変動地形（久保田）、・能登半島地震後の中部地方の隆起について（小林）、・地球を輪切りにしたトモグラフィ断面作成の紹介（小林）の 7 題の研究発表がありました。

なかなか熱のこもった意見交換がなされ、その中で、能登半島地震後の詳細なデータをもとにしての発表は、月ごとの細かなデータ解析がなされたもので、斬新なものでした。また紹介のあった、地球を輪切りにできるトモグラフィ断面作成は、インターネットで「Tomography globe」を入れて検索すると地球画像がでてきて、自分で好きな断面を切ることができるものでした。他にもいろいろなデータが入っていて、地球全体のことを考えるときには役に立ちそうだと感じられたものでした。

次回、第 18 回島弧ネオテク合同研究集会は、2026 年 2 月 11 日（水）13:00～17:00 です。

連絡先：足立久男 g.adachi@outlook.jp

＜関東山地研究グループ＞

★これからの野外調査★

期日：【秋の陣】11 月 21 日（金）～23 日（日）

【冬の陣】12 月 25 日（木）～27 日（土）

宿泊：かぶら宿 自炊 2,000 円/1 泊 学割あり

内容：宮室における海底土石流各ユニットの堆積構造の記載と D ユニットの礫種本調査。

冬の陣は、埼玉支部新年例会（本地域の巡査）準備をする。

連絡先：保科 裕 mikabogreen@jcom.home.ne.jp



下仁田・中ノ萱礫岩調査 250801

近況：四ッ又山南側の地質図がほぼ完成し、中ノ萱礫岩部

層の実体が明らかになりつつあります。したがって、山の中の調査は一段落しています、しかし、最近の“クマ騒動”には気をつけたいです。下仁田では例年通りのクマ出没状況ですが、油断はできません。今まで野生動物に会いたくて「クマ鈴」をつけなかった私でも、最近はつけるようになりました。みなさんも気をつけてください。

＜設楽団体研究グループ＞

夏の陣の報告と秋冬の調査について

この夏は、久しぶりに泊を伴う夏の陣を実施した。ここ数年間は流紋岩の産状観察から活動形態の復元に試行錯誤を重ねていた。露頭での肉眼観察では限界があり、検鏡の必要性を感じ始めていた。ただ、珪化して硬くなった流紋岩が薄片になるのかという不安があるうえに、薄片作成の場所もない状況だった。そんな中、メンバーの一人が地団研会員で古くからの友人に相談したところ下仁田自然学校を紹介してもらえた。（次ページに続きます）



薄片仕上げの段階

＜設楽団体研究グループ＞ 続き

8月21日から二泊三日で薄片づくりに取り組むことができた。施設を使わせていただけるだけではなく、薄片づくりの手順や長年の経験で得られたコツを懇切丁寧に教えていただけた。学生時代に作製したことはあってもコツを会得するほどの経験はなかった我々にとって、貴重な三日間であった。何よりも、地団研の横のつながりのありがたさを強く感じることができた。

設楽の流紋岩でも根気よく細心の注意を払えば薄片が完成できることを知りえたことを励みに、また流紋岩の岩壁に向かうつもりである。

秋から冬にかけ、これまでのよう日帰り調査を行う予定。興味のある方は連絡を。

連絡先：吉村暁夫 ippi@ma.medias.ne.jp

＜箱根発生期団体研究グループ＞

久しぶりの野外調査を10月22日に行いました。参加者は総勢4名でいさか寂しい気はしましたが、病気を抱えている人も多いのでやむを得ません。しかし、体調不良で長らく野外調査から遠ざかっていたAさんが久しぶりに参加され、往年の活動的な調査をおこなっていましたので大変心強く思いました。やはり、わが団研は不滅であると感じた次第です。

最近は今までの調査の重点地区であった赤根ヶ沢の論文化の進行が順調なので、滝沢川の方に重点を置いて野外調査にはげみつつ、この地域の論文化を目指しているところです。

わがグループの冬の活動予定は以下の通りです。来年も1月から活動予定です。

11月18日（火） 室内団研 池袋地団研本部

12月9日（火） 野外調査 10:00 御殿場線駿河小山駅集合 調査地域は滝沢川上流

12月16日（火） 室内団研 池袋地団研本部 終了後打ち上げ予定

連絡先：宮城晴耕 smiyagi@kir.biglobe.ne.jp



滝沢層下部の特徴的パミス層

＜秩父盆地団体研究グループ＞

秩父盆地団研 最近の活動

前回の「団研ニュース」でもお伝えしましたが、現在、『秩父堆積盆地の発生年代について』というテーマで論文作成をすすめています。現在、査読対応中で、今年度末には発表となる予定です。

その後の活動ですが、次のような内容の論文作成を予定しています。『盆地南西縁部の構造発達史について』、『盆地北東縁部の不整合形成について』。前者をまとめるにあたり、11月初めに野外調査を行う予定を立てました。当日は天気もよく気温もそれほど低くなく絶好の

「フィールド日和」だったのですが……。結局、この日のフィールド調査は中止にしました。調査地域周辺でクマの目撃情報が多いためです。これまで団研で秩父盆地を30年以上歩いてきましたが、こんなことは初めてです！やはり、今年は異常な年なのですね（でも、来年以降もどうなるか？？）。

もしフィールドを歩くことができれば、「写真」のようなりっぱな礫岩の露頭をみることができたかと思うと、たいへんに残念です。年末の冬の陣では歩けるかな……。団研としてやるべきテーマはまだまだたくさん残っています。それらをひとつずつ解決させていきたいと思っています。堆積盆地の発生過程について興味のある方は下記までご連絡をお願いいたします。

連絡先：岡野裕一（埼玉支部・県立所沢中央高校） 72okanoy@gmail.com



11月初めの調査で歩く予定であった地域にみられる礫岩層(2014年冬の陣で調査した際の写真)

<本宿陥没研究会の最近の活動> 新しい代表に交代しました

2000年の会発足から代表を担ってきた野村哲氏が筋肉痛を抱え、2025年4月27日の集会で、新井節・佐藤和平両氏の共同代表に交代しました。

2022年に3名の若手会員（現役卒業）が加入しました。その後は新入会員への成果の伝達も兼ねて、二次陥没盆地北側から西側の陥没壁周辺の構造と二次陥没盆地内堆積物の追跡調査等を行ってきました。24年11月～25年4月の調査では、二次陥没盆地内西部の道平川中流で不整合を確認し、東部の馬居沢川流域で発見済みの不整合（2018、下仁田自然史館研究報告に論文発表）とともに、本宿2次陥没内を埋めた物語山層（仮称）の実態が明らかになりつつあります（本宿団研1950の論文では、二次陥没盆地を埋めた堆積物は存在しないとされています）。

今冬は、年末か年始に2日間か3日間の現地集会を予定しています。今後の集会で、二次陥没盆地内の物語山層の実態を明らかにして、地球科学等に論文を投稿しようと張り切っています。

連絡先：新井節・佐藤和平（共同代表）tks_arai0502@yahoo.co.jp・wa313hei@yahoo.co.jp



250427 道平川中流部の調査 新会員2名参加

<朝日団体研究グループ>

朝日団研では2年ぶりに山での調査を行った。山地南西部の野川下流域を10/10から10/14にかけて歩いてきた。この付近は調査密度が粗く岩相分布に疑問が残る地域であった。旧中岳タイプ（追加調査で中岳山頂の岩相とは若干違っていることが判明して再検討中）と野川タイプおよび角檜タイプが分布している。特に旧中岳タイプと野川タイプの岩相変化と分布状況について調査した。

10月10日の旧体育の日は特異日と言われるだけに晴れていたが、その後は雨模様の天気が続いた。参加メンバーも2人とちょっと寂しいものであったが、花崗閃緑岩10個と流紋岩2個および花崗岩の段丘礫1個を採取して、花崗閃緑岩が広範囲にわたって岩相変化に乏しいことを確認した。現在、薄片作製と元素マッピングの作業を進めているところである。

右の写真は、木地山ダム湖を撮影したもので、上が調査初日の10/10、下が10/13朝の写真である。水位が目測で3mくらい上がっており、降った雨の量がわかる。雨中の調査で濡れた体は毎日ふもとの温泉銭湯で温めることことができたことに感謝したい。

（文責：大坪）

連絡先：大坪友英 ohtsubo@tokyocivil.co.jp



10月10日の木地山ダム湖（奥に祝瓶山）

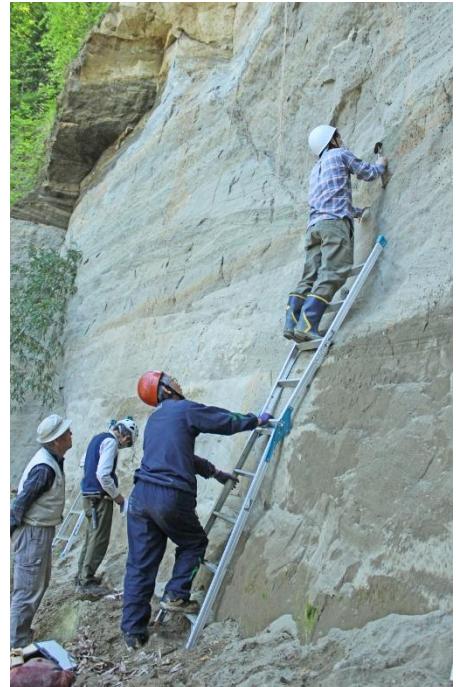
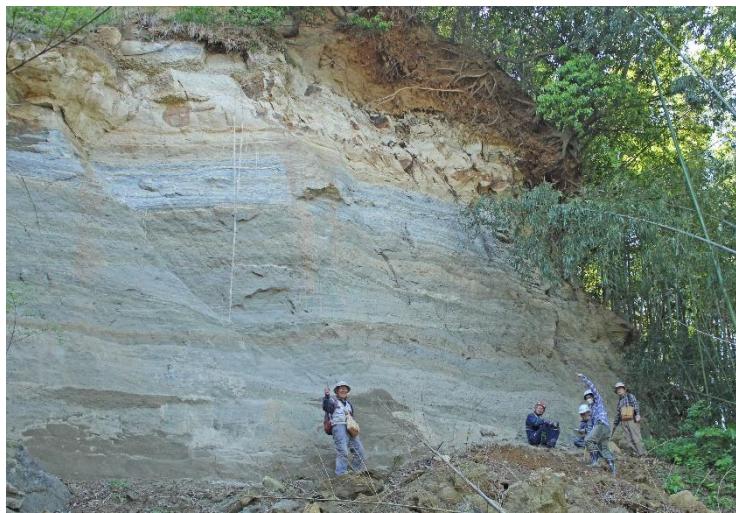


10月14日の木地山ダム湖（水位上昇約3m）

団研係より 高田総会「団研写真展」「自慢の露頭写真展」入賞作品を紹介します。

＜団研写真賞＞

タイトル **多摩丘陵での露頭調査（老若男子）** 関東平野西縁丘陵団体研究グループ 撮影：正田浩司



東京都日野市で大きな露頭が見つかった。安全に注意しながら壁にへばりついて調査した。上総層群小山田層の露頭で、堀之内第一テフラ (Hu1) や貝化石を含む。

(左)全景、(右)脚立を立て掛け詳細観察

＜自慢の露頭写真賞＞

タイトル **ピット礫にみられる force chains**

出展者：二村光一（刈谷支部）

富山県・岐阜県境、白亜紀前期の手取層群庵谷峠層にピット礫が発達している。ピット礫とは、圧力溶解で礫が変形したものである。そのピット礫が直線的に連続している。これは、材料工学でいうフォースチェーンであり、圧縮応力が伝播した軌跡を示していると考えられる。



層理面にほぼ平行断面の露頭写真

d1：上の写真の中央部の拡大

d2：ピット（赤線）、フォースチェーン（黄線）

ほぼ南北方向の水平成分をもった圧縮応力で
ピット礫は形成された。

